

「土砂災害を通して知る生きるありがたさ」

鳥取県 鳥取市立鹿野小学校 6年 長谷川 凜

私は、土砂災害のおそろしさを知りません。自分の家のうら山は、しっかり整備されているからです。だから、いつも安心しています。でも、私の家のうら山も、一度、土砂くずれがあったそうです。

まだ、私も生まれていなくて、お父さんも生まれていなくて、お母さんも生まれていない、約 100 年前のことです。私の家のうら山はまだ整備されていない山でした。そのとき、大雨で、うら山は土砂くずれを起こしました。安全な場所をさがす中、私の先祖の人たちは土砂に巻きこまれ、亡くなりました。

この土砂くずれの話は、88 才の、私のおじいちゃんが教えてくれました。私は、いつも、その話を聞くと、土砂くずれはこわいなあとと思います。以前、広島県で大変な土砂災害がありました。私は、あの映像を見て、初めて自分の目で見て、そのおそろしさを知りました。土や砂や木や石が山から落ちてきて、家の中に入ってしまうと、後片づけが大変です。それに、土砂に巻きこまれて行方不明になる方や、亡くなった方もいるので土砂くずれはこわいなあとと思います。

私は台風などで大雨がふると、いつもこわくなります。お父さんやお母さんと、「大雨こわいなあ。」「土砂くずれが起きたらどうする。」と、話します。私の住んでいる地区（集落）は、ひなん所が集落の公民館です。それでも危険なときは、町民の公民館である、トレーニングセンターにひなんすることになっています。ひなん所の確認はとても大切です。

そして、災害防災セットのあるところに、ひなんのやり方を書いて置いていたら、来るお客さんから、「いいことを書いとるなあ。」と、言われます。だから、うれしくなります。災害防災セットを使うのは、地しんのときというイメージがありましたが、そうではありませんでした。土砂災害でも使えます。命を守ることが大切で、そのためだったら、土砂くずれでも同じです。土砂災害で亡くなる理由は、行方が分からない、食料がない、ということかなあと私は思います。水も、食べ物も、人が生きるために大切です。だから、災害防災セットの中には、カンパンや、水が入っています。

私は、「生きる」を辞典で調べました。すると、意味は 4 つもありました。①命がある。②生活をする。③生き生きとしている。④いちだんとききめをあらわす。私は、この 4 つの中の②に注目しました。災害が起こると生活が不便だし、生活出来ないかもしれません。今、私たちは、災害がなく、平和に生活しているけど、災害が起これば、今の生活も変わります。その中でも、土砂災害は、生活が難しくなります。だから、自分の今の生活は大切だと思います。

土砂くずれが起きたとき、自分の命を守るために、どうすればいいのでしょうか。私は、自分でどうすればいいのか、1 つしか知りません。災害防災セットを持ってひなんすることです。日ごろからきちんと確認しておきたいです。

土砂災害はこわいです。だから、家族とひなん方法などを確認して、命を守れるようにしたいです。土砂災害について知ることで、生きるありがたさを感じ、ほかの災害につながることも、いろいろ分かりました。